

令和5年度病害虫発生予察注意報第2号

令和5年4月28日
愛 知 県

作物名：ムギ類
病害虫名：赤かび病

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 やや多い

3 注意報発表の根拠

- (1) 令和5年4月24日から27日に実施した発生状況調査（県内コムギほ場11地点52ほ場）において、複数の地点で赤かび病発病穂を確認した。例年と比較して初発が早い。
- (2) 名古屋地方気象台4月27日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり、ムギ類赤かび病の感染に好適な気象条件となる可能性が高い。
- (3) 前年5月下旬に県内10地点、20ほ場で実施した巡回調査において、ムギ類赤かび病の発病穂率は7.48%（平年0.74%、前々年3.45%）と過去10年間と比較して最も高かった。そのため、一次伝染源となる越年した病原菌の量が多いと考えられる。
- (4) 感染に好適な気象条件であった日とコムギが感染しやすい生育ステージが重なっていることから、前年同様に本年も感染リスクは高いと考えられる（表1）。

4 防除対策

- (1) 開花期防除から7～10日後の2回目の防除を実施していない場合は、表2を参考に薬剤散布を行う。
なお、コムギでうどんこ病が上位葉に進展する恐れがある場合は、赤かび病とうどんこ病の両方に適用のある薬剤を選択する。
- (2) 今後、降雨が続く気温が高く推移する場合は、ほ場における本病の発生状況を確認し、必要に応じて追加防除を行う。

5 かび毒について

本病原菌は、感染したムギの品質低下や減収の原因になるだけではなく、デオキシニバレノール（DON）やニバレノール（NIV）等のかび毒を発生させることがある。このため、麦類の生産段階（栽培、乾燥調製、貯蔵）において、赤かび病防除、赤かび病被害粒の選別等により、かび毒汚染の防止、低減を図ることが重要である。詳しくは、農林水産省が公開している「麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針（令和5年3月14日公表）（アドレス：https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/mugi_kabi_sisin.html）」を参考とする。

6 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085 内線471

表1 気象及びコムギの生育状況による赤かび病の感染好適時期

2023年 日にち	降雨の有無 ※1	感染好適 気象条件 ※2	コムギ生育※3	
			きぬあかり 11/10 播種	ゆめあかり 11/20 播種
4/1				
4/2	○	◎		
4/3	○	◎		
4/4		○		
4/5	○	◎		
4/6	○	◎		
4/7	◎	◎	開花期	
4/8	○			
4/9				
4/10				
4/11				
4/12	○	◎		
4/13		○		
4/14	○	◎		
4/15	◎	◎		
4/16	○	◎		
4/17	○	○		
4/18	○	○		開花期
4/19	○	◎		
4/20		◎		
4/21				
4/22				
4/23				
4/24				
4/25	○	◎		
4/26	◎	◎		
4/27	○	○		

(参考) 発生が多かった前年(2022年)の状況

2022年 日にち	降雨の有無 ※1	感染好適 気象条件 ※2	コムギ生育※3	
			きぬあかり 11/10 播種	ゆめあかり 11/20 播種
4/1	○			
4/2	○			
4/3	◎			
4/4	○	○		
4/5		○		
4/6				
4/7				
4/8				
4/9				
4/10				
4/11				
4/12				
4/13	○	◎	開花期	
4/14	◎	◎		
4/15	◎	◎		
4/16		◎		
4/17	◎			
4/18	◎	○		
4/19		○		
4/20				
4/21	◎	◎		
4/22	○	◎		
4/23		◎		開花期
4/24	◎	◎		
4/25	○	◎		
4/26	◎	◎		
4/27	◎	◎		
4/28		◎		
4/29	○	◎		
4/30	○	○		
5/1	○	◎		
5/2	○	○		
5/3		○		

(注)

気象データはアメダス(地点:名古屋)を参考にした。

※1 降雨が確認された日を○、うち日降水量が10mm以上は◎

※2 ○:子のう殻形成の好適条件(日平均気温13℃以上、当日または前日に降雨)

◎:子のう胞子飛散の好適条件(日最高気温15℃以上、日最低気温10℃以上、当日または前日に降雨)

※3 コムギの生育はAgriLooK(農業総合試験場、愛知県経済農業協同組合連合会と名古屋大学が開発した、1キロメッシュ気象データから生育予測を可能にした栽培管理支援ツール)により安城市赤松町の地点で計算した。

開花期は1穂につき数花開花しているものが全穂数の40%~50%に達する日。

本病に感染しやすいとされる開花期から10日間を黄色に示した。

表2 ムギ類赤かび病の主な防除薬剤（確認日：令和5年4月28日）

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	トップジンM水和剤（※）	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	散布	1
	トップジンMゾル				
	シルバキュアフロアブル（※）	収穫7日前まで	2回以内	散布	3
	ミラビスフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布	7
麦類	チルト乳剤25（※）	収穫3日前まで	3回以内	散布	3
	ワークアップフロアブル（※）	収穫7日前まで	3回以内	散布	3
	チルト乳剤25	収穫21日前まで	1回	散布	3
大麦	シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	散布	3
	ミラビスフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	散布	7

（無人航空機用）

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	トップジンMゾル	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	無人航空機 による散布	1
	チルト乳剤25	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機 による散布	3
	シルバキュアフロアブル（※）	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機 による散布	3
	ミラビスフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機 による散布	7
麦類	ワークアップフロアブル（※）	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機 による散布	3
	チルト乳剤25	収穫21日前まで	1回	無人航空機 による散布	3
大麦	シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	無人航空機 による散布	3
	ミラビスフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	無人航空機 による散布	7

薬剤名に（※）のある農薬は、小麦において、うどんこ病にも適用がある。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2022.pdf を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。